

〈韓国映画〉
鯨とり



〈インドネシア映画〉
カルティニ

国際友好姉妹都市親善月間協賛

アジア

映画祭

'90

市民の劇場〈第114回〉

主催—岐阜市 共催—国際交流基金
後援—岐阜県教育委員会

〈中国映画〉
子供たちの王様



〈中国映画〉紅いコーリャン



〈香港映画〉
清朝皇帝



2月12日(月) 岐阜市 文化センター小劇場

〈韓国映画〉鯨とり PM2:00~PM4:10
〈インドネシア映画〉カルティニ PM4:20~PM7:10

2月17日(土) 岐阜市 文化センター催し広場

〈中国映画〉子供たちの王様 PM5:30~PM7:20
紅いコーリャン PM7:30~PM9:00

2月20日(火) 岐阜市 文化センター小劇場

〈香港映画〉清朝皇帝 PM5:30~PM8:40

[入場料]通し券 2,000円 一日券 1,000円 ●全自由席 〈前売り日〉平成元年12月20日(水) 電話予約も受付けます。

●前売り・問合せ—岐阜市文化センター ☎<0582>62-6200 岐阜市民会館 ☎<0582>62-8111

上映作品紹介

2/12(月) 韓国映画
「鯨とり」



監督：ペ・チャンホ
出演：アンソング/イー・ミスク

韓国の若者を感動と笑いで包み最高のヒットをとばした青春映画。

1984年韓国演劇映画芸術賞、韓国映評賞受賞作品。

物語はソウル大学のキャンパスから始まる。すこし風変りな学生ピョンテは試験に失敗して、落ち込んでいた。彼は何一つまともにも出来ない。愛するミラニの心も遠のいた。悩んだ末、ピョンテは鯨をとる決心をする。浮浪者のミヌと知り合い、鯨とりが始まる。ピョンテは売春宿で奴隷のように扱われている失語症の娘チュンジャを救い、彼女の故郷に帰してやろうと決心する。それを妨害する悪漢たちとの追いつ追われつの逃避行。

インドネシア映画
「カルティニ」



監督：シュマン・ジャヤ
出演：イエニ・ラハマン/ウィスヌ・ワルダナ

カルティニは19世紀末のジャワで当時オランダの植民地統治下にあったこの国にはじめて、民族意識のともしびをともした女性である。

彼女は1879年、地方王族の妾腹の娘として生まれた。王族といっても地方の大地主という程度で、特別に絢爛豪華な生活をしているわけではない。しかし礼儀作法は実に厳格で、優雅である。こうした環境に育ったカルティニは実母が側室として差別されていることへの心の痛みを手掛かりとして女性差別の現実に目覚め、女性教育を志す。それが民族意識の自覚へと発展していく。

2/17(土) 中国映画
「子供たちの王様」



監督：陳凱歌
出演：謝園/楊学文

中国映画界の「第五世代」と呼ばれる監督たちの中でも一際目立つ陳凱歌監督作品で、1988年のカンヌ映画祭に出品され大きな話題を撒いた。

1966年から76年にかけて中国全土に吹き荒れた文化大革命の頃の話。都会から遠く離れた山間部の農村に「下放」されてやってきた若者が主人公。彼は教師として子供たちに接する。思想改革で今まで使用していた教科書が廃止になったためまともな授業が出来ない。子供たちの個性を伸ばそうとしない教育方針に疑問を抱き、彼は教科書を捨てる決心をする……。

中国映画
「紅いコーリャン」



監督：張芸謀
出演：鞏俐/姜文

1988年ベルリン映画祭グランプリ受賞以来、香港、ロカルノ、ニューヨークと世界の映画祭に絶賛で迎えられた話題作である。監督は「古井戸」の主演で知られる張芸謀。

物語は、1920年代中国山東省。18歳になる九児は、ロバー頭と交換にハンセン氏病に病む親ほど年の離れた造り酒屋の主人に嫁がされる。真っ赤なコーリャン畑のなかを進んでいると、覆面の強盗に襲われる。彼女を救い、強盗を殺したのは御輿を担いでいた余だった。彼女のなかに余に対するほのかな慕情が芽生える。やがて嫁ぎ先の夫が行方不明となり、九児は余と結婚する。番頭の協力を得て、商売は繁盛し、使用人たちにも慕われ、平和な日々がつづく、子供が9歳になったころ、日本軍がやって来た。コーリャン畑を軍用道路に変えていく彼らに九児らは抵抗を誓うが……。

2/20(火) 香港映画
「清朝皇帝」



監督：許鞍華
出演：張多福/達式常/阿依努爾

原作は驚異のベストセラー「書剣恩仇録」の映画化、第I部「紅花党の反乱」、第II部「シルクロードの王女・香妃」を一挙に上映。

清朝皇帝の出生にまつわる謎を、3時間にわたって描いた壮大なスペクタクル・roman。明朝が倒れて清の天下となり4代目、乾隆帝の時代。漢民族は清朝政府を覆そうと様々な秘密結社をつくって、反政府闘争を行っていた。その内の一つ、紅花会の首領が持つ文書には、乾隆帝の出生の秘密が記されていた。露見を恐れた乾隆帝によって首領が殺され、代わって陳家洛が紅花会を率いることになるが、乾隆帝と家洛は実の兄弟だった。

反清復漢を願う弟と清の政治的安定を望む兄。長引く戦いの中で家洛はウイグル族の助けをかり、その党首の娘2人と出会う。

一方、戦況は著しく変化し、六和塔に乾隆帝を拉致する。一旦は、同盟を結んだ紅花会だったが、再び乾隆帝の裏切りに会う。紅花会の仲間と愛する香妃を失くした家洛は兄への深い怒りと憎しみの中、西方へとひとり旅立つのだった。